

---

IS &lt; インフィニット・ストラトス > After sinking

杭打王子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

IS > インフィニット・ストラトス > After sin  
king

### 【Nコード】

N9870X

### 【作者名】

杭打王子

### 【あらすじ】

ラインアーク防衛で水没してしまうリンクス四名は、約11メートルのネクストが2メートル以下のサイズになってISの世界に飛ばされてしまった。

彼らは見知らぬ世界でいったいどのような生活をすごすのでしょうか？！

## プロローグ（前書き）

はじめまして、初投稿させていただきました。

この発想は某幻想入りのパクリ・・・なのかな？

文がひどい有様だと思いますがどうぞよろしくおねがいします。

## プロローグ

ラインアークは今最大の危機が迫っている。

「政治屋ども リベルタリア気取りも今日までだな、貴様らには水底が似合いだ。いけるな？フラジール」  
カロードのランク1オツツダルヴァ

「はい。そのつもりです」

アスピナ所属のcube

企業連に雇われた彼らは俺を潰しに来た。そう、ホワイトグリントを・・・

潰されてしまえばラインアークは重要な戦力を失い、反クレイドル活動はおろか、フィオナやラインアークの住民を企業の攻撃から守ることすらできなくなるだろう。

この最高戦力同士の戦いは企業とラインアークの運命を左右することになるだろう。

上の連中はこの襲撃の前、リンクスの試験としてここを襲撃したりリンクス・・・ストレイドを俺の両機として雇ったそうだ。

「ホワイト・グリント オペレーター、フィオナ・イエルネフェルトです。ご協力に感謝します。共に幸運を」

彼女は喋れない俺に代わって通信を担当をしてくれる、前は喋れて

いたのだがリンクス戦争最後・・・プロトタイプネクスト・ARE  
THAとの戦闘のさなかコックピットにコジマ粒子が混入、気管支  
がただれて喋ることができなくなった。

「こちらストレイド・・・あなたの両機だ・・・邪魔はしないよう  
にする」

両機が通信をおくってくる。彼のアセンブルはAALIIYAHをベ  
ースに右手にはMOTORCORA、左手にはMOONLIGHT  
T、背部兵装はRESORが積んであり、ほとんどリンクス戦争  
で潰された企業のパーツで組んであった。

戦闘が始まる・・・

相手のステイシスとフラジールはどちらも空中戦特化型の機体だ。  
フラジールはマシンガンオンリーなので先に厄介なステイシスを先  
に落とす。

ストレイドも同じ考えのようだ。フラジールを無視して二機で攻撃  
を加える。

ステイシスはストレイドに向けて、弾丸と誘導弾でかく乱し回避先  
にレーザーバズーカを浴びせかける。

「戦場に迷い込んだのか？素人が…話にもならんな」

「くっ！落ちろお！」

ストレイドは被弾しながらプラスマキャノンをぶっ放している。

俺はステイシスの後ろに回り分裂ミサイルとライフル弾の弾幕で攻撃後ろからの攻撃を食らうとステイシスは180度反転するとこちらに実弾とレーザーを放ってきた。

(ストレイドとも距離がある・・・ここは・・・)

多少の被弾を覚悟で急速接近し<sup>アサルトアーマー</sup>AAを起動、ステイシスを緑色の光で包み込む。

「クッ、メインブースタが完全に逝ってやがる。ダメだ、沈んでいく…こんなものが私の最期か…」

悔しさと失望の音が聞こえる。さっきの攻撃でブースタを壊しかけAAで止めを刺してステイシスを撃破する。

しかし、

「逝ってしまいましたか・・・しかし彼はチャンスをくれた。」

通信が入る、フラジールの四門チェインガンが二丁、こちらを向き、火を噴く。

さっきのAAで<sup>プライマルアーマー</sup>PAは消えているホワイトグリントは弾丸の雨をもろにくらう。

「ホワイト・グリント、戦闘不能です。…彼はもう、あなたの助けになれません。ごめんなさい」

ストレイドに送られた通信がこちらにも聞こえた。次の瞬間、海に着水・・・そのまま沈んでいく。

(結局、俺は誰も守れなかったのか・・・)

通信用キーボードに手を延ばし、

『すまない、フィオナ・・・』

という短い文を送信する。

そしてカメラは、二つの新たな波紋が海面にできているのを写す。それぞれの中心からネクストが沈んできた。

(相打ちか・・・この戦いの勝者は誰なのだろうか?)

そう思い、装甲が水圧でへこんでいくのを聞きながら目を閉じた。

そしてその数秒後声が聞こえた。

「その正体不明機！武器を捨て、手を上げなさい！」

女性の声だ・・・スピーカーからではなく、肉声だ。

そして“生身”で地面に立っている感覚がする。さっきまでネクス

トに乗っていて海に沈んでいたというのに・・・  
目を開けるとパワードスーツを着た女性が数名、武器を構えて5メートルほど離れて囲んでいる。

「もう一度言う、武器を捨て、手を上げなさい！」

確かに何かを握っている感覚がある。確認すると051ANNRと  
063ANNARが握られていたことに驚き、自分の腕を見て驚く・・・

自分の愛機ホワイトグリントの腕だったのだから・・・

## プロローグ（後書き）

最後まで読んでいただきありがとうございます。

いやーまずい、フラジールを強くしすぎたかも・・・まああつちに  
行ったらもちろん紙装甲にしますよ。

さて次回はグリントさんが質問をされまくります。

感想待ってます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9870x/>

---

IS &lt; インフィニット・ストラトス > After sinking

2011年10月28日06時10分発行